Om Hrim ritam ③

テージャス－タラーンティ　　タラサ　 　トヮイ　トゥリープター　トゥリーシュナーハ

Tejas-taranti tarasa tvayi trpta - trsnah

ラジャス　　打ち勝つ　　　　早く　　あなたに　満足した状態　（喉が）乾く

ラーゲー 　クリテー　リター　 パテ　 トヮイ ラーマクリーシュネ

Rage krite rita-pathe tvayi Ramakrishne;

好きになる　最高の　正しい　 　道　　 あなたは　 ラーマクリーシュナ

マールティヤー　 ムリターム 　タヴァ　 パダーム 　マラノールミ　 ナーシャーム

Martya-mritam tava padam maranormi nasham

この世界　　アムリタ（甘露）あなたの　　　　足　　　　　　　死　　　　　殺す（無くなる）

タースマッ 　トヮメーヴァ　 シャラナム　 ママ　 ディーナ　バンドゥー！

Tasmat tvameva sharanam mama dina-bandho!

そして　　　　あなたは本当に　　　 避難所　　　　　 私の　　　困った人の 　友達

＜意味＞

おおラーマクリシュナ。あなたは真理の道です。

あなたを深く愛すると、私の全ての欲望は満足され、すべての執着が消え、

ラジャス的（激性）な性質も克服できます。

この世の全てのものは一時的で無くなりますが、あなただけは永遠です。

（それを知っていても、私たちはつい身近な人にサポートを求めてしまいますが）

あなただけが、本当の友達、迷える者の避難所です。

＜賛歌集の訳＞

あなたの中に全ての願いの成就と、あなたに対する愛すべき執着を見出した者は、

おお、真理と正義の使途であるラーマクリシュナよ、

彼らはすぐにもハートの情熱の火に打ち勝つであろう。

あなたの名は信者達にとって実に不死の酒、死の波を実に打ち散らすものよ。

あなたは私の唯一の避難所、おお、卑しい、迷える者の友よ！

**＜語句解説＞**

Tejas：※1.スピリット(Spirit)、霊ではなく力、勇気、熱狂を合わせた意味。

Taranti：overecome　打ち勝つ、乗り越える

tarasa：早く

tvayi：あなたに

trpta：満足した

trsnah：渇く。前後関係でこの場合「欲望」

Rage：※2.好き、執着

krite：最高の

rita：※3.正しい、真理（最高の真理）

pathe：道。英語のpath＝「道」

tvayi：あなたに（ここではラーマクリシュナ）

Martya：※4.一時的なこの世界。

mritam：(＝amrita)無くならない、永遠、甘露

tava：あなたの

padam：足＝至高の存在（ここではラーマクリシュナ）のシンボル

maranormi：※5.marana=死の+urmi=波(海の波)

nasham：殺している

Tasmat tvameva sharanam mama dina-bandho：※6. Om Hrim ritam①解説参照

**＜解説＞**

※1. Tejas：サンスクリット語の本来の意味はスピリット(Spirit)なのですが、

ここではスピリット＝「霊」ではなく、「力、勇気」(Courage)、熱狂(enthusiasm)を

合わせた意味。この賛歌では、ラジャス(Rajas) の意味で使われています。

ラジャスの性質は、働き過ぎ、嫉妬、野心、欲望が一杯の状態です。

また、勇気、力、熱狂を合わせた性質を持っている人を、勇敢な人(Spirited Man)と言います。反対は「とても弱い人（軟弱な人）」です。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは若い時からとても勇敢な人で、スワーミー・アベダーナンダもそうでした。例としては、

例）ある人が非道徳的な仕事をすると、勇敢な人は「それは良くない」と反対します。

しかし勇気がない人は、なんでもOKで構いません。

例）電車の中で振る舞いが良くない人がいたとします。その無礼(rude)な振る舞いを見ても誰も何も言いませんが、勇敢な人は「なぜそんなことをするのか」と注意します。

例）「ラーマクリシュナの福音」より：農夫が畑仕事のために牝牛を買うとき、何を基準に選ぶかというと、牛の尻尾に触り、牛が怒ったり飛び跳ねたりする、そのような牛を選びます。元気で勇敢な牛だからです。逆に何をされても反応のない牛は、あまり仕事ができません。牛の中にも、勇敢な強いもの、弱いものがいます。

※2. Rage：ラーガ。好き、執着

ラーガの語源は「好き、執着」で、「執着」は否定的な意味です。

しかし、神様に対して使う場合はいくら好きでも「執着」とは言いません。

　サンスクリット語には、この２つの言葉があります。

**① アサクティ(Ashakti)：執着**

**② アヌラーガ(Anurag)：神様への愛**

　アヌラーガの反対は放棄で「ヴィラーガ(Viraga)」や「ヴァイラッギャ(Varagya)」です。

**◆ラーマクリシュナには２つのカバンがあります。**

**①ヴィヴェーカ(Viveka)：識別**

**②ヴィラーガ(Viraga)：放棄、神への愛**

ヴィラーガは肯定的な意味です。

　「アヌAnu」や「ヴィVi」は接頭辞で、ある言葉の上につくと色々意味が変わります。

　　ラーガ→ヴィラーガ、アヌラーガ

　神様をとても愛すると、rita-pathe=「真理の道」に行きます。

**◆**シュリー・ラーマクリシュナを愛すると、ラジャス的な性質はなくなります。

**ラーマクリシュナへの愛が出てくると、他人や物への執着はなくなります。**

わたしたちの執着がなくならないのは、そこまでシュリー・ラーマクリシュナを好きになっていないからです。

例）「ラーマクリシュナの福音」より：**神様への愛は「虎」のようだ**という話があります。虎は他の動物を食べます。同じように、神様への愛がたくさん湧いてくると、それは虎のように世俗的な愛や感情を食べるのです。世俗的な愛（カーマkama=肉欲）は動物で、それを神の愛である虎が食べるのです。

神は一番美しいものです。それに比べたら他のものは皆おとります。

人間の男女は若い時は綺麗ですが、段々衰え老化していきます。

神の美しさは永遠で、衰えず、決してなくなりません。

神様はとても美しく、甘く、至福に満ち、慈悲深く、賢い。人間とはレベルが違います。

ベンガル語ではミシュティと言いますが、日本語では適切な言葉が見つかりません。

人間は、例えば外見は綺麗でも、中（心）は汚れていたり、反対に、心が綺麗でも外見が綺麗ではありません。また、外見はきれいでも全く慈悲深さがなかったり、美しく親切であっても賢くなかったりします。

すべてを合わせて持っているのが神様で、それがシュリー・ラーマクリシュナの特徴です。そのような神様を好きになると、人に引き付けられる（attraction）ことがなくなり、他の人を以前ほど好きではなくなってきます。

このようにして、**ラーマクリシュナを悟るとすべての執着心はtripta=満足するのです。**

しかし、その種類の執着をなくすほどの神様への愛を持つことは難しいです。

我々は、１つの執着がなくなると他の執着が生まれ、またそれに引き付けられます。

執着がどれ位あるかはわかりませんが、意識に顕われなくても潜在意識の中にあります。

ですからある雰囲気・環境・場所に入ると、潜在意識からの執着が出てきます。

執着がどれ位あるかが、自分がどれ位神様を愛しているかの基準です。

わたしたちは、「ラーマクリシュナやお釈迦様が大好き。一番好き！」と思っていますが、それは間違った考えです。神様を好きになるのはとても難しいことなのです。

※3.：rita：rita pathe＝真理の道、正しい道 (patha：道)

rita-pathe Ramakrishna：おおラーマクリシュナ、あなたは真理の道です。

ラーマクリシュナは真理を悟り、また真理を悟る道になりました。悟った人や神の化身

ラーマ、クリシュナ、イエス、ブッダは、みな真理の道になって他の人を導いています。ですから、**その方たちの助言に従い実践をすると、実践した人も同じように真理を悟ることが出来ます。**

*例：「バガヴァッド・ギーター」*

*・12章7節：つまり常に自分の心を私に結びつけている人達にとって、私は、彼らを速やかに生死の海から救い出す主となるのだ。プリター妃の息子（アルジュナ）よ！*

*・12章8節：それ故、常に私のことのみを想い、己の知性のすべてを私に委ねるがいい。そうすることにより、君は疑いなく、これから常に私の中に住むこととなる。*

*・18章65節：常に私を想い、私を信じ、私に供養し、私を礼拝しなさい。そうすれば、君は必ず私の住処に来られる。君は私の信愛の友だから、そのことを君に約束する。*

このようにクリシュナはアルジュナに助言しました。ですからクリシュナは「道」です。

イエスの助言も色々あります。

「私は道であり、真理であり、いのちです。私を通してでなければ誰も父の御許へ至る事

はできません」 I am the Way, the Truth, and the Life.

No one comes to the Father except through me. （ヨハネによる福音書 第14章）

ラーマクリシュナもまた、時々直弟子に言いました。

「わたしを礼拝してください。わたしを瞑想してください。それで充分です。

そうすればあなたも悟ります。」

※4.Martya：一時的なこの世界。「いつも死んでいる、無くなっている」が本当の意味。

　死後の世界は「Martya-bhumi」と言う

Martya＋amrita ＝Martya mritam：無くならないもの。永遠。甘露。(＝amrita)

※5.maranormi：maranormi ＝marana（死の）+urmi（海の波）

死の波を殺している。（死の海・波は、我々の苦しみ悲しみのこと）

maranormi＋nasham＝全てのものは一時的で、無くなり、死にます。

　nashamは「殺す」ですが、ここでは「苦しみ、悲しみが無くなる」という意味です。

わたしたちの悲しみや苦しみの原因は、親類や知り合いが亡くなることや、お金や物が無くなることです。そのことがmarana。それを無くすことがurumiです。

この世界のすべてのものは無くなります。それがMartya。その中で、1つのものだけは無くなりません。tvayi Ramakrishneそれがあなたシュリー・ラーマクリシュナです。amrita甘露です。

　この世界の特徴は、「始まり→衰え→無くなります」。自分を含めて「生き物」も「物」も全て一時的で、すべて無くなります。ですから一時的なものは支えになりません。

例えば、台風で建物が沢山壊れたとします。そうなると建物は避難所にはなりません。

しかし、１つだけ特別に強い建物があるなら、それは避難所になります。

　普通の人は、困った時に父母や親戚に助けを求めますが、彼らは本当にあなたを助けることは出来ません。本当に困った時、神様以外、誰も人を助けることは出来ないのです。

ですから、シュリー・ラーマクリシュナだけが私を支えてくれるのです。

全てのものは一時的で無くなり、死にます。それらが苦しみや悲しみの原因です。

もし亡くなったらまた生まれてきます。それが輪廻転生で、それは止まりません。

maranoは「無くなる・亡くなる」ことですが、人の場合永遠に亡くなるのではなく、

また生まれては亡くなります。ではどうして輪廻転生は止まらないのでしょうか？

そうでないと、今の皆さんが亡くなると世界は停止してしまうからです。

前に亡くなった人がまた生まれることによって、世界は続いています。それが輪廻です。

そして、人が生きている間は苦しみや悲しみが続いていきます。

その中で、ラーマクリシュナだけは永遠です。甘露です。

例えば「あなた」の粗大な体だけでなく、本性のことも考えてください。ラーマクリシュナは、体は亡くなりましたが、本性はブラフマンなので、悟った人は亡くなりません。

体がなくても別なレベルで存在し、我々を導いています。そのために現れた可能性があります。普通の人は亡くなった後、天国や地獄に行き、また生まれます。神（の化身）は

粗大な体が亡くなっても、存在は亡くならず、永遠です。それがamrita=甘露です。

我々はそのことを頭で理解しても、本当の意味では理解していません。なぜなら皆さんは心の底から神様（ラーマクリシュナ）を瞑想したり、礼拝していないからです。

※6.：Tasmat tvameva sharanam mama dina-bandho!

おお、ラーマクリシュナ、あなたはわたしたちの避難所です。私は低いレベル、困った状態で問題を沢山抱えています、あなたはそのような私の友人です。